



ブルアカの

えっ

ちな

本

改訂版

R-18

# 目次

P4~18. トキがえっちな同人誌を  
読んでしまった…

ししみを

P19~23. まさかあの慈悲の怪盗  
「清澄アキラ」が先生の  
精液を盗もうと逆レ  
するけど普通に返り討ち  
にされて先生専用お手軽  
射精排泄穴に落ちるなんて

著. ディル 表紙. ししみを

P24,25. ブルアカイラスト

GAQ



**R-18**

**トキがえっちな同人誌を  
読んでしまった…**

**ししみを**



、アゲアゲ、



イクッ



先生ツ

先生に会いたい

同日、  
シヤールレオオフィス



今日の仕事は  
これで終わり



11-1  
14-1

そういえば頼んでおいた  
同人誌は届いてるかな？

生徒にバレたら大変だし、  
早く回収しておかないと



×先生



ト、トキさん……？  
なにをしてらっしゃって……？



あ、先生

先生の趣味嗜好を

勉強してました。

なんんて言い訳しよ

どうしよ

あつ……



先生は性処理のお時間  
が取れなくて困っているんですよね

先生



これは、罠だ！  
陸八魔アルが  
僕を陥れるた  
仕組んだ罠だ  
普通こんな  
あからさまに  
エロ本を置いて

……



でしたら  
このトキにお任せください

ズズ

がちゃーん



キスー!?

し、舌が…





この握力  
本気だ！  
本気で……！



ティーン

誰か助けてー!!!



は、外してよ!

同人誌の内容  
しつかりバレてる……

ブチブチ

おとなしく、  
なすが儘になつてください。

トキは先生が  
「なすすべなく滅茶苦茶にされる」  
シチュが好みだとわかつてますから

—!  
これが先生の生殖器……



トキ!  
こんなと止めて……!



……想定より一回りも大きい!



こんなもの  
入るでしょうか……?

ちんに夢中で

聞こえてない——!?

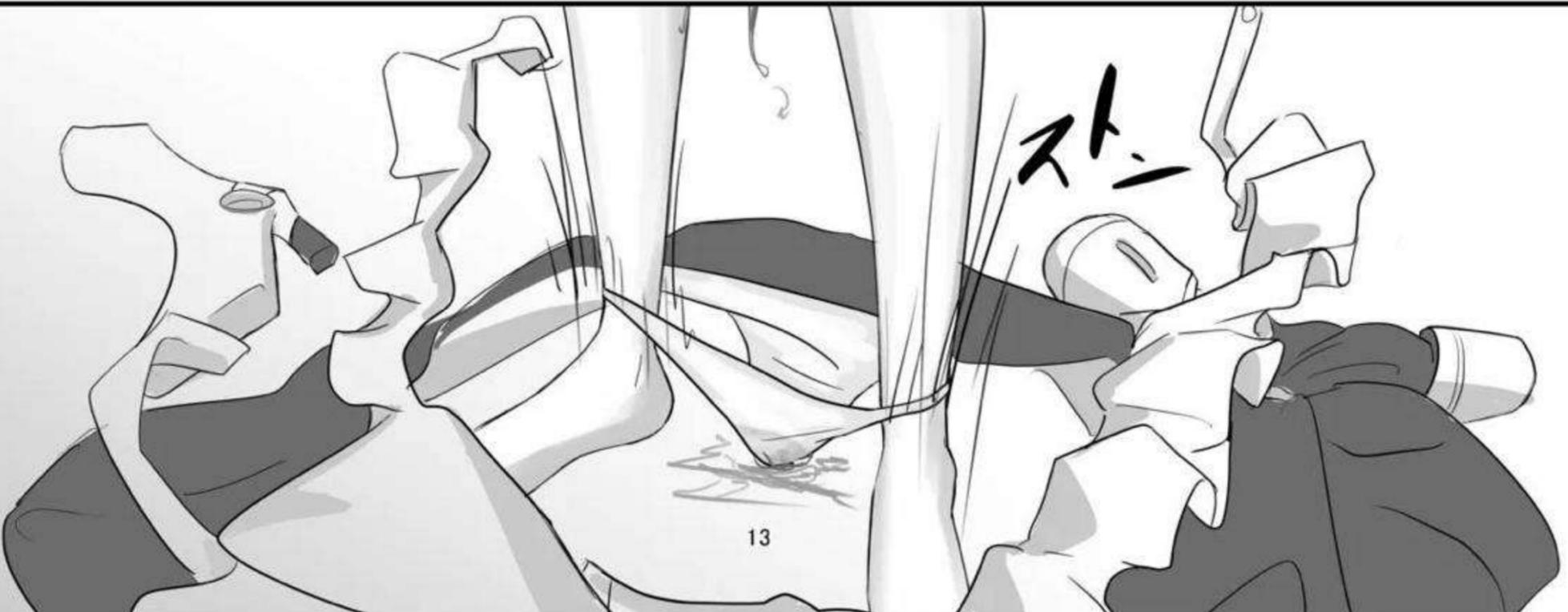


……トキ?

そ、そこはっ——

で、射精るっ——!!







これからが本番です。

やる気が出ましたか

これでは挿れまますよ。

これは生理現象で…!



動きますよ……

先生の  
全部入っちゃいました







ハァン  
先生……  
ハァン  
いかがでしたか……



あれ、先生？



クーン……

End... ~~~~~

まさかかあの慈愛の怪盗「清澄アキラ」が  
先生の精液を盗もうと逆しするけど  
普通に返り討ちにされて  
先生専用お手軽射精排泄穴に落ちるなんて……

著、デイル 表紙、ししみを

いこ

お

アッ

じゅん

じゅん

まさかあの慈愛の怪盗「清澄アキラ」が先生の精液を盗もうと逆レするけど普通に返り討ちにされて先生専用お手軽射精排泄穴に落ちるなんて…

著 デイル

慈愛の怪盗。それが私だ。他者から名付けられた名などに意味は無いと思いつつも、しかし大衆はいつだって記号で人を判別したがるものだ。

衆愚は理解していない。真なる美術品はその価値が理解できるもの手のみ渡ればよい。

もし、本当の意味で価値を理解できるひとが現れたら、私はそれを譲るだろう。

「ふふっ…先生…随分と、用心なんですね？」

夜、シャワーに入り込む。窓は鍵などされておらずにただすんなりと侵入する事が出来た。

「私、思ってるんです。先生の価値を理解してるのは私だけって。だから…」

ふっ、と顔を近づける。先生のカッコいい顔が、鼻先にある。このまま唇を重ねられたら。

このまま体を重ねられたら…きつとそんなくだらない事を考えて他の生徒は居るのだろう。でも、私は違うのだ。

「先生、貴方を盗みにまいりました」

するり、と肌をさらけ出す。決して豊満ではない胸と、あまり実っていない尻。どちらも女性として先生を盗むには余りに心もとない。でも…私は名がつけられるほどの怪盗なのだ。先生を奪う事なんて容易い。

「せんせえ？ふふっ…私の盗みの技術、たんとご賞味くださいね？」

先生の服を脱がす。はだけた鎖骨から視線を下ろしていく。決して厚くない胸板。割れていない腹筋。

誰かを守る、だなんて心もとない肉体だ。だけど、それでも。私は先生のどうしようもない生徒で、そして守られる存在なんだ。

「では、待ちに待ったおちんちんを…ふえ？」

少しだけ、ズボンを下ろそうとした時にチラッと見えてしまったのだ。先生のおちんちんが、立っている。

男性のそれなんて直視どころかチラツとさえ見た事も無い私は少しびつくりしてしまう。余りにも、大きいのだ。男性向けの官能的な絵画を以前に盗んだことがあった。それはちょうど先生のような細かい男性を艶めかしく書いたもので、当然の様に性器も書かれていた。だから、形は知っていた…筈だった。先生のが、余りに規格外すぎる可能性もあるんだ。

「ふ、ふふつ。きつと、私に色香に勃起したのでしょうか…えつと…他の人のズボンを下ろすのは難しいですね…あつ、でもいけそうです…ふぎやつ♡?」

先生のズボンを下ろした直後です。下着から先生の匂いが、脳を直接揺さぶられる匂いが私の鼻をくすぐりました。

「うっ♡うぎゅ♡?な、何この匂い…だ、だめっ♡」

匂いを嗅ぐのを、止めれない。

「ひゅ♡♡つぎ♡いぎゅ、オオ♡」

腰がガクガクと下品に揺れた。

「だっ♡ダメっ♡こ、これっ♡♡ダメ、ですっ♡変な♡変なイキ方覚えちゃう♡」

すんすんと、匂いを嗅いで、オ♡いぎゅ♡つて鳴き声をあげる。

「はあ…♡はあ…♡♡♡これっ♡ズい♡…あっ♡♡」

私の性器がふしゃふしゃとイキ汁を淫らにまき散らし、先生のベツドを上で腰がビーンと反った。ずっと、絶頂してる。匂いを嗅いで絶頂して、疲れて足が緩んだのか、先生のおちんちんを直接近距離で嗅いでしまった。

(これ、絶対だめなやつ…)

「っ♡ツツ、ツ♡」

強烈なメスを発情させるようなフェロモンを嗅いでしまつて、絶頂が止まらなくなり、そのまま気絶してしまった。

「んっ…はっ!わ、私としたことが気絶してしまいましたか…先生のおちんちん…いえ。おチンポ様凄かったです…こ、これは一時撤退です。作戦を考えねば…あれ?」

手を動かそうとする。ガチャガチャとなるばかりで動かない。

「なんか腰が暖かいと思ったら…アキラ、キミだったんだね」

「せ、せんせい…これは…」

言い逃れできない。手足を拘束されて、恥ずかしい恰好をさせられている。

「まあ、生徒のしたいことを尊重するのも先生の役目だし…」

そういつて先生が近づいてくる。途中で見えてしまった先生のおチンポ様に、また絶句してしまう。

「せ、せんせい？そ、その…おつきくなつてませんか？私が嗅いだ時より、だいぶ…」

そう、俯瞰で見ると二回りは大きくなっているのだ。薬でも使ったんだろうか。それにしてもは余りに自然だ…

「ああ、これ？これはただ勃起してるだけだよ。アキラは見るの初めてかな？」

先生の言葉に、また気絶しそうになる。まだ勃起してなかった先生のおチンポ様であれだと言うのだ。いま先生に犯されたら、どうなってしまうんだろう

「せ、せんせい…その…」

ごくり、と唾を飲む。

「お手柔らかに、お願いしますね？」

「おぎユウ、つ♡♡♡ツツあ♡♡♡ア♡♡♡オ♡♡♡んオ♡♡♡おッ

♡♡おッ♡♡ちんぽッ♡♡ちんぽオッ♡♡オ♡♡オ♡♡オッ♡♡♡♡

一体何回絶頂しただろうか。もう綺麗な声は出ない。子宮の奥に響くような、重イキしか味わえない。顔はぐちゃぐちゃに蕩けてし

まつて、先生の愛を吐くことしかできない。私の女性器は、いや先生専用のチン負け屈服済みのメス穴は先生につよよおチンポ様にかき混ぜられ、苛め抜かれ、跳ね狂う事しかできない。最奥の、最弱を執拗に亀頭で潰し続けて、その快楽にマゾメスになった自分は白目を剥きながらイキ狂ってしまう。

「おん♡♡♡ほッぎよ♡♡おッ♡♡き♡♡イ♡♡く♡♡ウ♡♡ウ♡♡ぐぎあオッ♡♡♡ほあ、あ、オッ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

バチ、バチと脳みそが変な音を立てる感触がする。アクメ潰け調教で、私の穴を貪る。先生には情けも遠慮もない。ただ純粹なオナホ扱いコキにどうしても興奮してまた淫らにイキ汁をぶちまけた。

「あお、オ♡♡♡あッ♡♡♡ウ♡♡おッ♡♡♡ほお♡♡オオ♡♡おッ♡♡おッ♡♡おッ♡♡オッ♡♡お、おお♡♡♡♡♡オ、オ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

先生の体位が変わる。おチンポ様が生ハメケースである私にズリコキ奉仕させるようなピストンから、孕ませようと、子持ちのオナホに変えようとするピストンへと。

一撃で私をハメ潰し、繁殖専用の生涯を隷属に使わせる人生ぶっ壊し鬼ピストンへ。

先生のおチンポ様が強くなる。オスの持てる限りを尽くした、ホンキで渾身のメス壊しプロポーズ掘削。

もう何も考えられない。オホ声が止まらない。淫らにハートが映るその瞳には人生を捧げる「ご主人様」しか映らない

「アキラっ、アキラ！だすよっ！」

せんせいがなにかいっている。はい。せんせいのメス奴隷は、なんでもうけとめます。

びゅぶり、と自分にも聞こえる声で、その雌肉の最奥で射精を感じた。その瞬間

「お、ッ、ッ♡♡♡ほッ♡♡♡ア、っ、ぎ♡♡♡ぎッ♡♡♡ギョ、う、う、う♡♡♡…ッ、ッ♡♡♡ホお♡♡♡オ♡♡♡オ♡♡♡ウ、お、お、お♡♡♡オ、オ、お、お♡♡♡…ッ、ッ、ッ♡♡♡♡♡♡」

自分でもどうしようもない程に、イキ狂ってしまう。炸裂した生殖本能は重く、熱く、そしてなにより濃く。私の胎を満たしていく。私の子宮が、書き換えられていく。

「せんせえ♡♡♡すき♡♡♡だいすき…♡♡♡♡♡♡愛して、ます…♡♡♡♡♡♡」

「私は気絶しちゃいますけど♡♡♡あとは先生の好きにしてください♡♡♡♡♡わたしはせんせい専用の♡♡♡♡♡♡」

わたしは、慈愛の怪盗は何も盗まない。だって私はせんせいの…

「オナホですから♡♡♡♡♡♡」

先生のおチンポ様がわたしに突き刺さる。

「ッ、ん、ほ、お、…ッ、ッ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

私の意識は、そこでなくなつた





# 奥付

---

【ブルアカのえっちな本．改訂版】

発行日：2024/12/29

サークル： 排他脊椎動物

発行者： ししみを

(shishimiwo@gmail.com)

印刷会社： テイズプリント

※無断転載、転売及び複製を禁じます。

---



排他脊椎動物

**Thank you for reading!!**